





詞八衢語釋下卷

多行之圖 並受るてにをその家

下二段活	中二段活	四段の活
撫 <small>ナ</small> 捨 <small>スル</small>	閉 <small>ム</small> 落 <small>ル</small>	待 <small>マツ</small> 打 <small>ウツ</small>
(て)	(ち)	(た)
まむぬいであ	まむぬいであ	まむぬいであ
いるまきて らぬあきて	いるまきて らぬあきて	いるまきて らぬあきて
(つ)	(つ)	(つ)
ととりきむ	ととりきむ	ととりきむ
(る) <sup>テ</sup>	(る) <sup>チ</sup>	
よりおまか あ	よりおまか あ	よりおまか あ
(ま)	(ま)	(て)
どやを	どやを	どやを

○このけいふ八衢の活細事

○八衢語釋下

水 2  
4383  
2

四段の活詞

あうり	あやま	うり	うり
又班散	ま	打	穿
わ	か	く	け
勝	託	降	消
又假言			
こ	ま	そ	た
破壊	巢立	育	立
			漬
た	た	も	ま
漸	保	あ	ら
		放	政
ひ	ひ	ま	
日立	独言	待	
ひ	ま	ワ	
満	持	分	

○ひつ古今集五小わのこまきでのひつをかりあむ六帖又ふ  
ヒタリトメレニアルヲカシテ  
 袖ひはなをまえ及撰集意ふをてめらうがひつ金葉集まに池  
 小ひつ松の云ながありまてけてををけら乃中二段も活て

(ま)け(な)や(あ)  
 が(や)の(ま)え  
 未(然)言(り)已  
 受(る)を(已)  
 然(言)り受  
 る(の)ニツ  
 有(是)ハ己  
 然(言)ち受  
 る(の)小(こ)  
 ら(ひ)の(利)の  
 そ(い)し(る)  
 中(二)段(も)活(て)る  
 意(を)

おちり言あまこれ例あやせ終りまあり

○みつ拾送カ古今集にあやまをまえ及撰集意ふをてめらうがひつ金葉集まに池  
キイタユエカシテ  
 ぬ海とまけなや拾送集意ふをてめらうがひつ金葉集まに池  
アヒタニ  
 亦後拾送集まに池とまけなや拾送集意ふをてめらうがひつ金葉集まに池  
キセチ  
 ひつ松の云ながありまてけてををけら乃中二段も活て  
ミツマイカヤ  
 奇よまあれらうれ源氏抄活真本ねまむしのまに池  
 て云と丹波守為忠家百首に盛忠いらなればまえらうがひつ金葉集まに池  
 月影の云ながありまてけてををけら乃中二段も活て  
 中二段も活てるとまあれらうれ源氏抄活真本ねまむしのまに池  
 又志ら活きたらうも見あらうが皆右のままに池  
キセチ

八雲語釋下

雅言集覽  
小あひのま

ふりまばかりまゝ寛き女御入内屏向早苗と家澄やう急  
えつたの田面乃さあ水ちちち小ごをあき世のうげそええり  
とあるえつたハミをえりてえとありいゆる自化の口  
ちありよりえりまじり

中二段の活詞

このつるを倍えよハちるやりの例え

いさつる位

れつる落

れづる

くつる朽

まこづる諧

そやづる濡

とづる閉

むづる耻

ひつる漬

もまづる紅葉

よづる攀

もつる帰初ハ

○いさつる 古事記上卷小啼伊佐知仗ナキイサチ云々又下ナキイサチ哭伊佐知流ナキイサチ

延喜此詞  
後の空  
見えむと  
つり

やありこいさつるやつづき例あればはせまちることついで  
ハ俗まの例あり續日本紀宣命アラ荒備流アラといはれ俗言の  
例なりのめかやくつる例なり

○まこづる 日本紀孝徳卷に諧倉山田大臣於皇太子曰云々  
續日本紀宣命シカテ小譏シカテまシカテとシカテ云々字鏡シカテ諧譏也志

己豆シカテとありシカテちづシカテづシカテとのシカテありてシカテかのシカテそシカテきシカテこシカテぎシカテれ  
ども詞のシカテさシカテりシカテてシカテ力シカテをシカテこシカテきシカテかりシカテまシカテてシカテ四シカテ匠シカテのシカテまシカテたシカテるシカテまシカテふシカテら

濁音シカテ一シカテもシカテなくシカテこシカテのシカテはシカテてシカテたシカテわシカテをシカテ濁シカテまシカテれシカテたシカテまシカテきシカテれシカテたシカテなり

○そほづる 堀川百首雜シカテに彼シカテゆシカテらシカテぬシカテ拾シカテ送シカテ集シカテ意シカテふシカテまシカテづシカテる

○ひほづる 拾シカテ送シカテ集シカテ意シカテふシカテまシカテづシカテるシカテかのシカテつシカテらシカテぬシカテ山シカテ川シカテのシカテ頂シカテ集シカテ

古事記  
真男鹿

折うと相通  
ひて称辞

木風の義  
音便  
手知母云  
雁の本  
手知母云  
雁の本  
手知母云  
雁の本

下二段の活詞  
いづると俗言よへてるといふ例なり

あつれ當 〇あつれ惶急 いづれ出 〇うづれ葉

かたづけ奏 〇かたづけ企 まつれ捨 〇まつれ育

たつれ立 〇たつれ撫 ひづれ秀 〇ひづれ隔

まづづれ詣 〇まづづれ燂

〇あまづる字鏡小惶急阿和豆アヲありけりアヲとてアヲハミ

〇うづる古事記上巻にぬぎ宇豆ウマテ入棄ステとてステウマテユマテありけりユマテ

〇ゆづる字鏡小燂以菜入湯イナ云々ユマテ奈由豆ナユマテあり又菜イナ在湯ユマテ

〇古事記上巻にイナ垂ユマテでユマテ古今集春イナよユマテ志ユマテをユマテたユマテ道ユマテゆユマテ

道ゆき  
萬葉

〇八衢語釋下

〇田



○夏格の活句ハ冬の上ニルに於ける訓死乃何うなるのなり活  
 言ハ丈四段乃くきのみて切るやはくその洞  
 ニつらきその結ハニあり下からの洞ハ結とり切となり

一段の活詞

小ふ 煮 似

下二段の活詞

はぬると俗言ハ結とり例あり

かぬる兼 かせぬる重 かしぬる又結 たるぬる束  
 たりぬる豊 たがぬる尋 けうぬる束 けがぬる局

かぬる 結を訓せ 萬葉略 解みあり 事む俗に 東を古く 訓に古く 其意々ま 多何祢提 東何祢提 多何祢提 道のみ道 道のみ道 道のみ道 重ぬる道 重ぬる道 重ぬる道 相傳略 辞

けうぬる連 けうぬる委

ぬる寐 けうぬる曲

おぬる撥 又撮 ぶさぬる攝 又統

- かぬる万葉十八ノヤハ内乃許登可多祢も持
- たがぬる万葉五ノ大乃手握扶腰に多何祢提とあり
- たぬる万葉十五に行道の長道手繰置
- つぐぬる情吟日記小依ゆひきつつひひぐぐつつええあり
- おもぬる古事記下巻に須岐婆奴流母能すと万葉集二小
- 奥津いひつくな波波祢祢そ邊津うみみくれととあり
- ふさぬる日本紀用明巻二摠撰二方機二とよう他のまつと





四段の活詞

あつ逢	あつ論	あつ奸賊 又仇	あつ會釋	あつ争	あつ闘	あつ祝	あつ詛	あつ誓祈	あつ諾
あつ購	あつ噓	あつ扱	あつ和	あつ言	あつ誘	あつ答	あつ失	あつ遷	
あつき商	あつき遊	あつき率	あつき洗	あつき休息	あつき漂蕩	あつき浮	あつき歌	あつき奪	
あつ又噓 又傾浮	あつ又能	あつ扶助	あつ諍	あつ心	あつ厭	あつ窺	あつ疑	あつ潤	

うだつ諾	うや敬	うや行	うや思	うや耀	うや掠	うや通	うや霧合	うや意	うや流落 下二段	うや衰弱 又體	うや侍
うや擇	うや襲	うや及	うや鞅掌 又懸	うや語	うや競	うや食	うや嘖讓	うや誘	うや進赴 又進退	うや慕	
うや逐	うや音信	うや養	うや赫	うや竊	うや同上	うや喰	うや逆	うや呻吟			

○八衢語釋下

○八

あつごゝ順 角觥 ちよごゝ職 だぶ又賜給 たいごゝ猶豫 ちやごゝ又塵散 ちよごゝ償 ちよごゝ誅 ちよごゝ詛  
あつごゝ飾又補理 ちよごゝ吸 ちよごゝ添 だぶ違 だぶ漂 たり足 ちよごゝ使 ちよごゝ繕 ちよごゝ銜 ちよごゝ調  
あつごゝ靡 ちよごゝ救 ちよごゝ損 だぶ又比類 だぶ賜 ちよごゝ誓 ちよごゝ番 ちよごゝ傳 ちよごゝ問 ちよごゝ伴  
あつごゝ恐 ちよごゝ住 ちよごゝ揃 たく又畜 たく又踰躄 ちよごゝ違 ちよごゝ集 ちよごゝ飛 ちよごゝ准

なづごゝ旺近 ちよごゝ荷 ちよごゝ願 ちよごゝ宣 ちよごゝ運 ちよごゝ拏 ちよごゝ振 ちよごゝ混 ちよごゝ帰順又服 ちよごゝ賂  
ちよごゝ習 ちよごゝ白 ちよごゝ勞 ちよごゝ咒詛 ちよごゝ慚 ちよごゝ拾 ちよごゝ舉止 ちよごゝ支給又賄 ちよごゝ纏 ちよごゝ迷  
ちよごゝ並比 ちよごゝ呻吟 ちよごゝ窺又狙 ちよごゝ這 ちよごゝ拂 ちよごゝ相應 ちよごゝ諂 ちよごゝ禁厭 ちよごゝ惑 ちよごゝ轉  
ちよごゝ賑 ちよごゝ縫 ちよごゝ杖 ちよごゝ計 ちよごゝ匍匐 ちよごゝ觸 ちよごゝ舞 ちよごゝ交 ちよごゝ學 ちよごゝ御覽

○八衢語釋下

○九

古事記ハ  
小児の事ト  
アガナフ命  
ハミテアキトヒ  
ミタマヒキ  
蜻蛉日記  
魚の水中  
浮び

むらう向	むらう廻	むらう結	むらう咽	むらう委蛇
むらう備	むらう鯛	むらう結	むらう養	むらう休
むらう呼	むらう粧	むらう結	むらう又婚	むらう死
むらう悦	むらう粧	むらう又婚	むらう又婚	むらう備具
むらう悦	むらう踏	むらう又婚	むらう又婚	むらう備具
むらう又敬	むらう醉	むらう又婚	むらう又婚	むらう備具

○あぶ万葉集十七に 安賀布アガナフ命 字鏡に安賀布

○あぎふ古事記中巻一始為阿藝登比蜻蛉日記三

出て入ま  
女君の會  
尺座を各  
受けて各  
其座をよ  
けて通せ  
は事を之  
りやうや  
おりの女  
君の會尺  
出て入ま  
出る形容を  
云ふるが  
んととり  
（あまが  
足やうと  
わけて助  
るが如く  
業を助け  
かまをよ  
こ足代を  
らふかか  
ととり  
（えいし  
云々記傳  
よ礼記傳  
息の聲ハ  
てんやハ

ゆにまねぢ云々あひりり

○あふ日本紀神代卷小らたふぬかとよ也り

○あたふ日本紀神代卷に奸賊とあ

○あやふ万葉二御軍乎安騰毛比賜ま九ふ阿騰

○あふ日本紀宣命小阿奈奈比奉やあ利

○あふ日本紀仁徳卷舒明卷一不和とあふ

○あふ應神卷に欲和とあふ

○あふ古事記中巻にやあやあ伊基能布

○八衢語釋下

○十

物を賤し  
朝の辞  
俗に  
やと  
人罵るを  
め罵るを  
いひ  
と

加賀布耀  
歌  
の義  
の反  
ハ男

そやあり

○いそよスわりねたうにいそよなりり 落窪ものびたり

○うもよ古事記上巻に宇氣布とに伊勢とけり  
に於てたれ人といへをあてあり

○うだくよ 萬葉十八の神あり 宇豆奈比 続日本紀宣  
余に相宇豆奈比奉あやむほあり

○うはよ 拾遺集うはよき案せ 丹後守為忠家百  
首小忠盛へのあはせ乃のうはよめり

○かよ 万葉九に加賀布耀歌あり

交りて歌  
ふと

ハ必上何  
等の疑乃  
ておま  
格と切  
花の香  
云花の香  
来と云  
か語の  
あひて切  
其は事  
らか事  
さけ事

○かよ 今集雜ふよ 垣家の好忠集ふよ  
のまが 垣川百を報ふかよいよ 紫代房 丹後守為忠家  
百首に仲正あり

○かよ 古事記中巻に掠奪其母王 続日本紀宣命高  
御坐次乎加藤 毘奪す皇位乎掠 天ありま日本紀

繼體卷に掠とあり

○かよ 万葉十八の神あり 後撰集春に山

乃乃苑の香あり

○くよ 万葉四久流比久流比 松あり

○ころよ 日本紀神代巻に發殺威之噴讓 又神武天皇 誥

○八衢語釋下

○士



物(もの)が二  
相觸(あ)るを

○まゝがふ 源氏中川表より見えまゝがひまゝは徳角巻  
と見えまゝがふなぞをあま

○たゞ 続日本紀宣命に多婆受タダサレズやありまゝは後小治政  
たゞあどつたれ々たゞたゞと音便クダサレズよつてあり

○たゞもふ 万葉十九も多タ久波ク比ヒ置シききとあまをさへ介ケ活カ  
きたるも見えまゝは後中二辰乃活ナカニタチノイカるまゝは後ノチくさるま

ごとく見えまゝは後ノチに似たれまゝはあふふ勢セ又おま  
この向常不用下二辰乃活ナカニタチノイカをえおまどくまゝは後ノチは

たゞもつたれまゝは第二の音にニ活イカるまゝは後ノチは  
てテ憂ウのノ戦セりリまマはハひヒりリ啼ナいイまマをヲあアぢチまマひヒたタ人トとトあアまマひヒ

入涅槃賦  
人子照り義  
字鏡のハ  
活カ行カ四シ段ダのノハ  
活カ行カ四シ段ダのノハ  
活カ行カ四シ段ダのノハ

活カ行カ四シ段ダのノハ  
活カ行カ四シ段ダのノハ  
活カ行カ四シ段ダのノハ

活カ行カ四シ段ダのノハ  
活カ行カ四シ段ダのノハ  
活カ行カ四シ段ダのノハ

活カ行カ四シ段ダのノハ  
活カ行カ四シ段ダのノハ  
活カ行カ四シ段ダのノハ

活カ行カ四シ段ダのノハ  
活カ行カ四シ段ダのノハ  
活カ行カ四シ段ダのノハ

○八衢語撰下

○十三

伊勢物語  
古意云天  
の常古  
天の傳  
たる事  
始と物  
の美  
も妙

さくかく四辰よまゝにほくハ他のもめこれよまびよせひこ  
の行下二辰小なむふなむふれなむふまなむふと活  
きてち化乃れはよあまをそあずくつこくまゝとあり  
た不かくむなむふりあむくそたきまのこくめりよて自化とわ  
るめくつあむふれどこハつてかまむふそいげむれづつ  
でよまきゆへむあり

- ふるふ 落くばふウナリとつり
- 移ぎらふ 日本紀雄略巻に勞軍オキアラとつり
- のろふ 靈異記に咒とのろふ 伊勢物語にあふれ逆手とつり

冠カウハ吉事キチコトハ手テ前マエにハ後ノチ方カタママムムムム

ゆがくシクくちをいんて  
○ぬれむふ 源氏初音にぬれむふとあるやあ  
まて支本集に西行法師志保がむふとあるはひてあ  
ありこけむふとあるはひてあ  
ふむと延てつれあり

- ふるふ 舊事記にゆえくそ布瑠部フルベとあり
- こそなるふ 新古今事にゆえくそとあり

○ふるふ 古事記上巻に委蛇モコヨビキ又日本紀に乃ハヒマハル源氏  
葵よむとあり

委蛇モコヨビキハ此守コノミを





川氏云細螺ハ今昔ト云物ト又或人云志崇螺のミソキ物ト云

て從ありなぞしくまらざる

一段の活詞

ひるひる 噴

○ひる 和名抄ヒナ嚏 和名波奈比流ヒナ噴鼻也古今集ヒナ鼻  
ひぬるなどあほありまゝヒナ鞞ヒナもねいひるをばとを噴と  
ねあ〜河あるべ〜

中二段の活詞

あ〜づるホ あ〜づる荒 ふなづる辞謝 へもづる疎

このづると俗言ハひるこの例あり

うれづる憂 ねづる生 ねきなづる翁 ねふづる大人

わづる叫哭 づづる徴 づづる冠 づづる奇

こづる戀 づづる媚 こやけづる殊更さづる鏽進

まづる強 づづる聾 去のづる認モ ちづる進

だろづる武 こもづる之 あだづる調和 ちづる調

めづる延 ほろづる綻 ほろづる液 ほろづる亡

ほなづる學 むねづる睦 もちづる用 わづる詫

わうづる若 むやづる恭敬又跪禮 まされづる幼心

○たにあげらるるか何づるや〜と〜か〜あ〜  
○あやづる 出雲国造神賀詞、赤玉鉦御阿加良アカラ毘坐ビあ

何ぶらんの  
ふらふら  
トくてそ  
こゝろ意

ては何麻行あくハ四段の活あむもこのひふうは  
く乃活とまゝとるけ敷ふふれうまあ

○いなぬる 源氏末摘花承知セテのあひぬらうてまゝ若菜ふ  
かろつわづると又終角承知セテえんきこえのあひでなぞあはれあり

○うやぐさ 祝詞トク疎夫留ゆ疎備トクなまありこれも麻の  
にくき四段のもゝまきなり

○うまころ 三代實録比憂比とありけくこの河はひひ  
の乃下二段の活ふのも周ひなるを右乃てくつら四段の活  
れ格まをけきとてのあにうまきたるこせりえざればつづ  
まゝかたうにひきとがとれと四段の活なるバうまは

うまぬうしとどあうよまなをけはつわづとまむ  
えぞこれ活あくハうまむむうまぬうまむとつ格な  
まかハつてまきまらあ後ぞうまかきふり但しむとどま  
ま二つた活く河の例四段乃活と中二段乃活又四段の活を  
下二段の活むたハあまめあむ中二段と下二段とにま  
きておあどまあハ例をけ此例四段の活と終のみたう  
とつ下につるる事りりひまきりたて

○むづつ 万葉九にさかびカ於良妣カ日本紀崇神卷に叫  
哭入雄略卷ヨビ呼喚ヨビやどりうれましくかよとてうまむ四段の  
活きやもむとどれと乃とてまのあつた

媚附（媚附）記  
傳（傳）今俗  
言（言）物小  
垢（垢）乃の  
去（去）みつ  
云（云）も是  
志（志）斐（斐）連  
録（録）志（志）斐（斐）連  
大（大）中（中）臣（臣）  
祖（祖）の（の）イ

天（天）今（今）ねま  
は（は）きむ  
源（源）氏（氏）湖（湖）月  
山（山）の  
里（里）乃（乃）の  
人（人）を  
に（に）男（男）を  
秘（秘）に  
ん（ん）も  
は（は）あり  
り（り）と

○こづ 字鏡（字鏡）媚（媚）古夫（古夫）靈異記（靈異記）媚（媚）び（び）と（と）古事記  
上卷（上卷）媚附（媚附）云々（云々）あり（あり）こ（こ）の（の）ゆ（ゆ）は（は）き（き）た（た）る（る）こ（こ）と（と）見（見）え（え）ば（ば）ど（ど）し  
これ（これ）も（も）な（な）ら（ら）ず（ず）漢（漢）籍（籍）漢（漢）よ（よ）に（に）び（び）や（や）と（と）い（い）ふ（ふ）  
ろ（ろ）と（と）ま（ま）さ（さ）る（る）に（に）つ（つ）り

○まづ 万葉三（万葉三）い（い）ふ（ふ）と（と）つ（つ）と（と）強流志（強流志）斐（斐）能（能）我（我）強語（強語）云々  
ち（ち）と（と）云（云）信（信）甲（甲）人（人）と（と）あ（あ）ひ（ひ）が（が）な（な）ぞ（ぞ）あり

○あつ 和名抄（和名抄）に（に）華（華）和名（和名）美（美）々（々）之（之）比（比）又（又）盲（盲）和名（和名）米（米）之（之）比（比）古  
事記（事記）を（を）あ（あ）り（り）し（し）を（を）あ（あ）ら（ら）す（す）と（と）い（い）ふ（ふ）は（は）も（も）い（い）は（は）河（河）か（か）る（る）べ（べ）し

○志のづ 係（係）氏（氏）常（常）本（本）た（た）づ（づ）ね（ね）と（と）い（い）ふ（ふ）は（は）も（も）い（い）は（は）河（河）か（か）る（る）べ（べ）し  
云（云）若（若）紫（紫）よ（よ）志（志）の（の）び（び）と（と）い（い）ふ（ふ）は（は）も（も）い（い）は（は）河（河）か（か）る（る）べ（べ）し

あ（あ）ら（ら）す（す）と（と）い（い）ふ（ふ）は（は）も（も）い（い）は（は）河（河）か（か）る（る）べ（べ）し  
さ（さ）せ（せ）あ（あ）ら（ら）す（す）と（と）い（い）ふ（ふ）は（は）も（も）い（い）は（は）河（河）か（か）る（る）べ（べ）し  
中（中）二（二）段（段）の（の）ま（ま）と（と）い（い）ふ（ふ）は（は）も（も）い（い）は（は）河（河）か（か）る（る）べ（べ）し  
つ（つ）に（に）ま（ま）と（と）い（い）ふ（ふ）は（は）も（も）い（い）は（は）河（河）か（か）る（る）べ（べ）し  
こ（こ）の（の）ま（ま）と（と）い（い）ふ（ふ）は（は）も（も）い（い）は（は）河（河）か（か）る（る）べ（べ）し

○まさづ 係（係）氏（氏）朝（朝）敷（敷）と（と）い（い）ふ（ふ）は（は）も（も）い（い）は（は）河（河）か（か）る（る）べ（べ）し  
ゆ（ゆ）わ（わ）く（く）ハ（ハ）四（四）段（段）の（の）信（信）と（と）い（い）ふ（ふ）は（は）も（も）い（い）は（は）河（河）か（か）る（る）べ（べ）し

○たろぶ 古事記（古事記）上卷（上卷）小建（小建）而（而）訓建（訓建）云（云）万葉集（万葉集）十一（十一）小（小）木（木）も（も）ひ  
多（多）雞（雞）備（備）て（て）も（も）あ（あ）り（り）ま（ま）と（と）い（い）ふ（ふ）は（は）も（も）い（い）は（は）河（河）か（か）る（る）べ（べ）し  
た（た）ろ（ろ）び（び）と（と）い（い）ふ（ふ）は（は）も（も）い（い）は（は）河（河）か（か）る（る）べ（べ）し



例ハ<sup>サホドニ</sup>は<sup>ツレホドニモ</sup>し<sup>中ヨウセス</sup>むづ<sup>。</sup>びぬを<sup>。</sup>ゆさ<sup>。</sup>女がほふ<sup>。</sup>あう<sup>。</sup>く<sup>。</sup>む<sup>。</sup>ひむ<sup>。</sup>むづ<sup>。</sup>  
るをぢ<sup>。</sup>ハ<sup>。</sup>あ<sup>。</sup>ど<sup>。</sup>あり

○あや<sup>キモヒテ</sup>ぎ<sup>。</sup>る<sup>。</sup> 続日本紀宣命<sup>キノ</sup>ハ<sup>。</sup>為<sup>。</sup>夜<sup>。</sup>備<sup>。</sup>末<sup>。</sup>都<sup>。</sup>利<sup>。</sup>日本紀繼體<sup>。</sup>  
巻に礼賢<sup>キキミ</sup>買<sup>。</sup>す<sup>。</sup>、跪<sup>。</sup>礼<sup>。</sup>あ<sup>。</sup>ど<sup>。</sup>あ<sup>。</sup>て<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>て<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>日本紀孝照巻に礼<sup>。</sup>神<sup>。</sup>

とオ三の多より下へ<sup>。</sup>け<sup>。</sup>げ<sup>。</sup>て<sup>。</sup>よ<sup>。</sup>あ<sup>。</sup>る<sup>。</sup>ハ四段の活乃格なりまねも  
この詞のさ<sup>。</sup>又<sup>。</sup>四段乃<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>て<sup>。</sup>き<sup>。</sup>詞<sup>。</sup>の<sup>。</sup>こ<sup>。</sup>と<sup>。</sup>に<sup>。</sup>ハ<sup>。</sup>り<sup>。</sup>く<sup>。</sup>ど<sup>。</sup>こ<sup>。</sup>乃<sup>。</sup>活<sup>。</sup>詞<sup>。</sup>

の<sup>。</sup>け<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>に<sup>。</sup>お<sup>。</sup>も<sup>。</sup>こ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>れ<sup>。</sup>ど<sup>。</sup>こ<sup>。</sup>と<sup>。</sup>に<sup>。</sup>お<sup>。</sup>せ<sup>。</sup>り<sup>。</sup>性<sup>。</sup>よく<sup>。</sup>考<sup>。</sup>あ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ど<sup>。</sup>

○う<sup>。</sup>れ<sup>。</sup>び<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>な<sup>。</sup>び<sup>。</sup>く<sup>。</sup>や<sup>。</sup>び<sup>。</sup>た<sup>。</sup>か<sup>。</sup>び<sup>。</sup>光<sup>。</sup>び<sup>。</sup>な<sup>。</sup>ぢ<sup>。</sup>あ<sup>。</sup>る<sup>。</sup>を<sup>。</sup>

麻<sup>。</sup>ひ<sup>。</sup>く<sup>。</sup>ハ<sup>。</sup>四<sup>。</sup>段<sup>。</sup>の<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>て<sup>。</sup>き<sup>。</sup>詞<sup>。</sup>を<sup>。</sup>れ<sup>。</sup>ぢ<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>の<sup>。</sup>け<sup>。</sup>あ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ど<sup>。</sup>こ<sup>。</sup>乃<sup>。</sup>活<sup>。</sup>詞<sup>。</sup>  
け<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>て<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>て<sup>。</sup>あ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ど<sup>。</sup>

下二段の活詞

此うると俗言ふるるとり例あり

あ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>敢 <sup>。</sup>あ<sup>。</sup>が<sup>。</sup>あ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>祟 <sup>。</sup>あ<sup>。</sup>こ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>輿 <sup>。</sup>あ<sup>。</sup>け<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>訛

あ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>れ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>和 <sup>。</sup>う<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>應 <sup>。</sup>う<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>と <sup>。</sup>か<sup>。</sup>く<sup>。</sup>ま<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>深奥

か<sup>。</sup>さ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>押 <sup>。</sup>か<sup>。</sup>や<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>衰 <sup>。</sup>か<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>替 <sup>。</sup>か<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>抱

か<sup>。</sup>ど<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>筭 <sup>。</sup>か<sup>。</sup>ど<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>負 <sup>。</sup>か<sup>。</sup>あ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>叶 <sup>。</sup>か<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>構

か<sup>。</sup>じ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>考 <sup>。</sup>く<sup>。</sup>づ<sup>。</sup>る<sup>。</sup>燒 <sup>。</sup>く<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>加 <sup>。</sup>く<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>比

こ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>慰諭 <sup>。</sup>こ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>答 <sup>。</sup>さ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>障 <sup>。</sup>さ<sup>。</sup>き<sup>。</sup>え<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>幸延

ま<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>流落 <sup>。</sup>あ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>隨 <sup>。</sup>あ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>調 <sup>。</sup>あ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>統

そ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>添 <sup>。</sup>そ<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>揃 <sup>。</sup>た<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>堪 <sup>。</sup>た<sup>。</sup>が<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>違

た<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>副交 <sup>。</sup>た<sup>。</sup>く<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>貯 <sup>。</sup>た<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>湛 <sup>。</sup>た<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>ら<sup>。</sup>る<sup>。</sup>携

ほろろる 上ノ  
のり 上ノ  
り 上ノ  
を 上ノ

たせらるる 譬 たちあつる 違 此かつる 事

たせらるる 傳 せらるる 集 せらるる 唱

とせらるる 捕 ながるる 並 ながるる 存命 ながるる 准

ふせらるる 准 ながるる 並 のせらるる 延 せらるる 延

いせらるる 被 せらるる 扣 ふせらるる 踏 せらるる 薫

ほせらるる 綻 ゆせらるる 混 ゆせらるる 交 よせらるる 擬

わきませらるる 辨 とせらるる 竟

○ ちせらるる 情冷日記に抄しくしめりげりくせらるるハあつれしもゆ  
だにゆりぬて化しをせられ又こと案めさあつれしをあつれしを  
源氏葵ふころをえんちせらるるのあつれしを古本相ふ人の見せらるる

おもひまよ  
れはふかま  
しむふかま  
思ふふかま  
の意ふかま  
諾をいふ

上ノ古ノ  
心ノ古ノ  
はふかま  
意ハ  
真間經而  
おくれりて

ほろもなる 倭舟に 八目つりあつれしを 倭衣三に人めも

えはせらるる ちせらるる ちせらるる ちせらるる 又詔詞解よ敢

時止 為 ちせらるる ちせらるる ちせらるる ちせらるる

とハ切らるる 酒より受る例よりさるあつれしは常におむりつる

○ あつれしなる 日本紀應神卷ふ欲和とあつれしを ちせらるる

とせらるる ちせらるる ちせらるる ちせらるる 又仁徳卷ふ不和とせらるる

せらるる ちせらるる ちせらるる ちせらるる ちせらるる

○ うせらるる 古事記上卷ふちせらるる ちせらるる ちせらるる

うせらるる ちせらるる ちせらるる ちせらるる ちせらるる

○ ちせらるる 万葉十二小真間經而 ちせらるる ちせらるる

○ 八衢語釋下

○ 二十一







大まかいハ  
云ハ男の  
魂を言ふ  
こゝろの期  
こゝろの意

下二段活	中二段活	一段の活	四段の活
責 <small>セ</small> 聚 <small>ル</small>	試 <small>シ</small> 恨 <small>ル</small>	見 <small>ミ</small>	讀 <small>ヨム</small> 住 <small>ス</small>
め	み	み	ま
きむぬてむ	きむぬてむ	きむぬてむ	きむぬてむ
みるゑて 去ぬふき うる	みるゑて 去ぬふき うる	みるゑて 去ぬふき うる	みるゑて 去ぬふき うる
む	む	み	む
むらむらむら	むらむらむら	むらむらむら	むらむらむら
む <small>ム</small>	む <small>ム</small>	む <small>ム</small>	む <small>ム</small>
よとひまか り	よとひまか り	よとひまか り	よとひまか り
む <small>ム</small>	む <small>ム</small>	む <small>ム</small>	む <small>ム</small>
ぶやむ	ぶやむ	ぶやむ	ぶやむ

麻行之圖

並受ろててととととと

○八衢語釋下

○二十四

こゝろの意をば言ふ魂を言ふ大まかいハ云ハ男のこゝろの期

○万葉十よよたましひの朝まきつゆつたよ多麻布禮杼扶衣  
よよぬのまををむめくつ。朝踏 枕草伝よまろきよみ依のむ  
まむたろうんよひまろつたろまみれあふあふハハコココココ  
れバあれ活こもまろつたろまみれあふあふハハコココココ  
てつひむと。ハむきむれとほむくつろつたろれろのし  
け下二段の活のまろつろ

加

四段の活詞

あむ編	あむ赤	あむ同上	あむ驚歎 又朝
あたま敵	あたま憐	あやむ怪	あやむ危
あゆむ歩	あそむ青	へむ忌	へうむ嚴 又重
へらむ勇	へそむ歎	つむ痛	へほくむ愛
へやむ桃	つやむ營	つやむ又憐	へこむ屯聚
うむ産	うむ倦	うむ埋	うほくむ慈
うむ疎	うむ不む諾	うそむ慶	うやむ羨
うれむ愛好	うれむ嬉	れつむ老	れそむ欣感
かむ嚼	かむ梯	かへむ垣間見	かむ屈

きんむむ  
の義少  
かむ意

かむ圍	かむ畏	かむ掠	かむ奸
かむ辱	かむ悲	きむ刻	きむ黄
くむ汲	くむ組	くむ又含	くやむ悔
くろむ苦	くろむ黒	ききむ氣色	こむ籠
こやむ無事	このむ好	さへむ罪	まむ染
まむ柵	まむ縮	まむ沈	まむ萎
まやむ塩添	まらむ白	まらむ同上	まむ皺
まむ住	まむ澄	まむ屈縮	まむ進 又弄
まむ進	まむ涼	そむ染	そむ妬
たむ回轉	たくむ巧	たふむ嗜	たむ墨



朝の義を朝と云ふ  
朝の義を朝と云ふ  
朝の義を朝と云ふ  
朝の義を朝と云ふ  
朝の義を朝と云ふ

○つむ 万葉二に敵見有とありカクキニシタル以外もそそきたる

見えぬれどもこれ活あるべし中二段のそそきたるは

○いぞ 日本紀神武卷屯聚居之屯聚居此云怡皮淤萎 又欽明卷

に充満ありイモリ

○うざあ 續日本紀宣命よ天地カ宇倍奈弥ウベナミ由流之シヨウチ

やあはるありとありたれありぞ

○うれそ 伊勢抱が案にわづせワヅセがどやうれそ

みせやうれそこれそよふおあどイヒワケトニ中ヨウ

○おいぞ 枕草紙よおつをみやろを

○かむ ねみおの搦俗云波奈加無 保氏あげまらる

と云ふをくうらつてあせあり

○かつ日 伊勢抱がうらふかみみてミテ大ねはつら

にかつすえはわらうと

○かだ 靈異記よ新を可陀弥 日本紀中續日本紀

宣命に新とあり

○かたけ 続日本紀宣命に辱弥カクミやあり

○さざむ ぬ志集朝葉のなまざむむね乃密保やあり

○くらむ 狹衣にくらむわやあり

○こまふ 古今集よちやわやもまふあり

まゝ保氏もはつらとあり

○ちゆうや 源氏行幸に御手跡ちゆうやと基ちゆうや

切チキちゆうやなる 松草紙よ御手跡ちゆうやみちのちゆうや

○ちゆうや 萬葉十八之保美チキちゆうや

○ちゆうや 源氏明石よチキちゆうや又チキちゆうや

雲にチキちゆうやチキちゆうや又夕顔よチキちゆうや

言抽チキちゆうやチキちゆうやチキちゆうや

○ちゆうや 花草紙よチキちゆうやチキちゆうや

○ちゆうや 万葉九よチキちゆうやチキちゆうや 皴奴字鏡よチキちゆうや

と於毛氏志和年チキちゆうや

○たす 万葉集三よチキちゆうやチキちゆうや 榜回舟チキちゆうや

細真の嶋

浦武津の  
名  
地名

と榜轉小舟チキちゆうやチキちゆうやチキちゆうや

又捨速おろよチキちゆうやチキちゆうや

○ちゆうや 今撰お奇事よチキちゆうや

○ちゆうや 万葉集十七よチキちゆうや

○ちゆうや

○ちゆうや 源氏物チキちゆうやチキちゆうや

○ちゆうや

○ちゆうや 日本紀崇神卷チキちゆうや

○ちゆうや

○ちゆうや 日本紀崇神卷チキちゆうや

八聞語釋下

ふせめる  
契沖云に  
とんがごと

三ッ齒組  
て僅三ッ  
まる老人の  
齒の形容  
をいへる  
まア川の  
云此白ハ  
上黒ハ  
も白川とい  
い其白川の  
水昔及ま  
でとくして  
三ッ齒組  
老ニハ  
とる

○小<sup>ゴ</sup>下<sup>ダ</sup>心<sup>シン</sup> 源氏葵<sup>ゲンジアヅナ</sup>に<sup>ニ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ル</sup>う<sup>ウ</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup> 棠<sup>トウ</sup>花<sup>カ</sup>よ<sup>ヨ</sup>の<sup>ノ</sup>ガ<sup>ガ</sup>り<sup>リ</sup>鳩<sup>トビ</sup>の<sup>ノ</sup>や<sup>ヤ</sup>  
オホホシ  
ニクミエルクミジ

○と<sup>ト</sup>信<sup>シン</sup>中<sup>チュウ</sup>々<sup>々</sup> 續日本紀宣命<sup>ツギニッポンキノノノミ</sup>に<sup>ニ</sup>愧<sup>カヅ</sup>美<sup>ミ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○ひ<sup>ヒ</sup>る<sup>ル</sup>す<sup>ス</sup> 和名鈔<sup>ワナシヨウ</sup>と<sup>ト</sup>痿痺<sup>シビ</sup>俗云<sup>ソコトクニ</sup>比<sup>ヒ</sup>苗<sup>ヒノ</sup>無<sup>ム</sup>夜<sup>ヤ</sup>末<sup>マツ</sup>比<sup>ヒ</sup>活<sup>カツ</sup>句<sup>ク</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○や<sup>ヤ</sup>く<sup>ク</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 源氏和<sup>ゲンジワ</sup>倍<sup>バイ</sup>紅<sup>ベニ</sup>葉<sup>エフ</sup>の<sup>ノ</sup>や<sup>ヤ</sup>う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>  
ボウクト  
イタシマスピン

○い<sup>イ</sup>ろ<sup>ロ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 源氏夕<sup>ゲンジユフ</sup>都<sup>ト</sup>ふ<sup>フ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>  
トシガヨリテ

○を<sup>オ</sup>く<sup>ク</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 古事記上<sup>コトシキノノ</sup>卷<sup>マキ</sup>に<sup>ニ</sup>わ<sup>ワ</sup>が<sup>ガ</sup>河<sup>カ</sup>の<sup>ノ</sup>い<sup>イ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>  
ヤクサ  
ウラヒ  
イマスアラウ

○な<sup>ナ</sup>み<sup>ミ</sup>居<sup>イ</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 古事記下<sup>コトシキノノ</sup>卷<sup>マキ</sup>に<sup>ニ</sup>獲<sup>ウ</sup>菱<sup>シ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○よ<sup>ヨ</sup>う<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 万葉集<sup>マンヤクシュ</sup>甲<sup>カ</sup> 老<sup>オ</sup>舌<sup>シタ</sup>出<sup>デ</sup>て<sup>テ</sup>與<sup>ヨ</sup>余<sup>ヨ</sup>年<sup>ネン</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>  
ペロクシ

○さ<sup>サ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○か<sup>カ</sup>み<sup>ミ</sup>居<sup>イ</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 古事記下<sup>コトシキノノ</sup>卷<sup>マキ</sup>に<sup>ニ</sup>獲<sup>ウ</sup>菱<sup>シ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>  
ナミカ  
ナラハンカ

○あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○さ<sup>サ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○さ<sup>サ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○さ<sup>サ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○さ<sup>サ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○さ<sup>サ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○さ<sup>サ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○さ<sup>サ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○さ<sup>サ</sup>ゆ<sup>ユ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

○あ<sup>ア</sup>ら<sup>ラ</sup>と<sup>ト</sup>む<sup>ム</sup> 乃<sup>ノ</sup>乃<sup>ノ</sup>と<sup>ト</sup>あり<sup>リ</sup>

一段の活詞  
みる

命余年ハ  
高おちたる  
老人の物  
こころ







岐多麻須  
母ハ切  
ハ所ニテ  
大方歎息  
なり

○えいひる 萬葉二十ふり清小依志米<sup>エセシメ</sup>ノ中<sup>メ</sup>あり  
○ねとひる 源氏桐壺小ね<sup>照</sup>ハ元<sup>姫</sup>と云々ななり  
○つらむる 伊勢もね<sup>シ</sup>ぐて<sup>シ</sup>筆<sup>シ</sup>に<sup>シ</sup>加<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>元<sup>シ</sup>られ<sup>シ</sup>キリ 落窪  
おがた重<sup>シ</sup>に<sup>シ</sup>加<sup>シ</sup>て<sup>シ</sup>元<sup>シ</sup>られ<sup>シ</sup>キリ  
○きたむる 續日本紀宣命小支<sup>タカ</sup>多<sup>ナ</sup>米<sup>メ</sup>た<sup>ナ</sup>り<sup>メ</sup>日本紀  
皇極卷歌小支<sup>常世神</sup>た<sup>打</sup>岐<sup>タカ</sup>多<sup>メ</sup>麻<sup>マ</sup>須<sup>ス</sup>母<sup>メ</sup>也<sup>ナリ</sup>あり<sup>イ</sup>す<sup>ハ</sup>  
むむの延<sup>ナ</sup>り<sup>タ</sup>る<sup>リ</sup>あり  
○ちむる 源氏<sup>イ</sup>幸<sup>キ</sup>に<sup>ニ</sup>ひ<sup>キ</sup>ま<sup>シ</sup>た<sup>シ</sup>元<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>く 浮城<sup>ウキ</sup>の<sup>ノ</sup>  
こゑ<sup>ハ</sup>ひ<sup>キ</sup>ま<sup>シ</sup>た<sup>シ</sup>元<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>く 伊<sup>イ</sup>と<sup>ト</sup>ゆ<sup>ク</sup>て<sup>シ</sup>わ<sup>キ</sup>り<sup>タ</sup>り  
○志<sup>シ</sup>む<sup>ル</sup>れ 拾遺集雜に志<sup>シ</sup>む<sup>ル</sup>れ<sup>シ</sup>ト<sup>シ</sup>ヤ<sup>シ</sup>キ<sup>キ</sup>あり

新撰字鏡  
取物蔵  
注はり  
母はり  
後見  
人

耳をたく  
とる  
遠く  
昔の事  
貴む

○志<sup>シ</sup>む<sup>ル</sup>れ 日本紀崇神卷匿と志<sup>シ</sup>む<sup>ル</sup>れ<sup>シ</sup>ク<sup>シ</sup>ヤ<sup>シ</sup>キ<sup>キ</sup>あり  
○せむる 狭夜<sup>イ</sup>の<sup>ノ</sup>が<sup>ガ</sup>メ<sup>メ</sup>と<sup>ト</sup>が<sup>ガ</sup>ハ<sup>ハ</sup>に<sup>ニ</sup>せ<sup>セ</sup>た<sup>タ</sup>元<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>く<sup>ク</sup> 責<sup>責</sup>  
又母志<sup>イ</sup>も<sup>モ</sup>せ<sup>セ</sup>た<sup>タ</sup>元<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>く<sup>ク</sup> 寄<sup>寄</sup>来<sup>来</sup>  
○そむる 源氏桐壺<sup>ナ</sup>に<sup>ニ</sup>あ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>り<sup>リ</sup>元<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>く<sup>ク</sup> 側<sup>側</sup>  
川<sup>カ</sup>と<sup>ト</sup>が<sup>ガ</sup>ハ<sup>ハ</sup>と<sup>ト</sup>が<sup>ガ</sup>ハ<sup>ハ</sup>あり  
○たむる 新古今集序<sup>ナ</sup>耳<sup>ミ</sup>と<sup>ト</sup>が<sup>ガ</sup>ハ<sup>ハ</sup>と<sup>ト</sup>が<sup>ガ</sup>ハ<sup>ハ</sup>あり  
○あむる 六帖<sup>イ</sup>真<sup>マ</sup>弓<sup>ユ</sup>た<sup>タ</sup>む<sup>ム</sup>と<sup>ト</sup>が<sup>ガ</sup>ハ<sup>ハ</sup>あり 及拾遺集<sup>イ</sup>君<sup>キ</sup>  
を<sup>ヲ</sup>む<sup>ム</sup>た<sup>タ</sup>元<sup>シ</sup>れ<sup>シ</sup>く<sup>ク</sup> 溜<sup>ル</sup>と<sup>ト</sup>が<sup>ガ</sup>ハ<sup>ハ</sup>と<sup>ト</sup>が<sup>ガ</sup>ハ<sup>ハ</sup>あり  
○たむる 源氏<sup>イ</sup>桐<sup>キ</sup>壺<sup>ウ</sup>と<sup>ト</sup>が<sup>ガ</sup>ハ<sup>ハ</sup>と<sup>ト</sup>が<sup>ガ</sup>ハ<sup>ハ</sup>あり  
ミ<sup>ミ</sup>ア<sup>ア</sup>ハ<sup>ハ</sup>セ<sup>セ</sup>マ<sup>マ</sup>ウ<sup>ウ</sup>ス

目莫令之  
相見事  
こそと  
こそと

略け  
之  
を

○とち去むる万葉十に今だよて延年べや又十丁目莫令之  
○もむる万葉十七おうち波米底とありまき伊勢相落しき  
つゝあせとあるもろふたの物たるこされどし中河  
○ひむる源氏繪合にいたくひりてありこら乃そつた  
○ぬう愛海万葉二に深目手そんぞ古今集よなあり  
かろくわらひそそろなごあり  
○見へ愛れ万葉十七見之米やあり  
○情冷日記よされどそのちをけしむとやあるはつあ  
乃延らうたうにてこれ活詞よりずこの本上はそつた

也行之圖 並受つておとと共

下二段活	中二段活
榮 愈 報	老 報 老
え	い
むねむねむ	むねむねむ
むねむ	むねむ
むねむ	むねむ
むねむ	むねむ
むねむ	むねむ
むねむ	むねむ

○いけよ八四段乃活一活の活なり

中二段の活詞 このゆを俗えよはつるとり例あり

おゆる老 くらゆる悔 こゆる臥 むくゆる報

○おゆる 源氏手習にられおゆるにちやあり

○八衢語釋 下

○三十三

○こゆる 万葉五下うち評伊やそなでけあうかにこゆる  
轉臥  
 こゆるこゆるをなほさたるまよきまじりかくなす  
 詞の例あり又こゆるこゆるこゆるとほきて阿のこゆる  
 こゆるまよきれとこゆるこゆるまよきやよりかのかよふり  
 こゆるまよきれとこゆるこゆるまよきやよりかのかよふり  
 ○ひゆる うつほおがてう俊彦にむくひとあり

下二段の活詞 けゆるを係るはえらむてり例あり

- あゆる 肖
- あゆる 熟
- あゆる 澱
- あゆる 甘
- いゆる 愈
- いゆる 断
- いゆる 協
- いゆる 思

あゆる  
 いゆる  
 山同ト

わゆる 所思 きゆる 消  
 こゆる 越 こゆる 肥 さゆる 寒 さゆる 榮  
 志れる 萎 そびゆる 聳 たゆる 絶 けゆる 瘠  
 こゆる 生 いゆる 冷 ほゆる 吠 まみゆる 見  
 みゆる 所見 まゆる 燃 けゆる 若 こゆる 瘁瘡  
 ○あゆる うけや物がふれあふびきまにねゆるとてりる思  
 そえてりかうふれたる子のあえむけしき舞ひく秋ゆを  
 あゆるやまきる思がふれをせとまの野ふとがうは後撰  
 集よきみかたにけるれとけりあえくさね 金葉集連  
 寺よちあゆるとけりゆるとてりる思あやあ

あゆむの  
實の熱  
まらむ

○あゆむ 万葉八よむゆく 五月とちの安要奴 近江 實 ヤウニ 花咲

しきり云々 秋 十に秋 キナレバ 秋 ミカ 花の安要奴 アノツタヤウニ 時 ニ ナツタヤウニ

まこ又十八上安由流實 アユシ 八よむぬき ホ 花 ナ 草紙 ナ 上あせ ナガレ

○あゆむ ねらふ ナガレ 血 ナガレ 花 ナガレ 草紙 ナガレ 上あせ ナガレ

れ ナガレ 花 ナガレ 草紙 ナガレ 上あせ ナガレ

○あゆむ 源氏 アミエタレテ 寄 ヤトリキ 生 ナガレ 花 ナガレ 草紙 ナガレ 上あせ ナガレ

ゆ ナガレ 草紙 ナガレ 上あせ ナガレ

活 ナガレ 草紙 ナガレ 上あせ ナガレ

俗 ナガレ 草紙 ナガレ 上あせ ナガレ

○いづゆる 和名抄 イ 嘶 イ 和名 イ 以波 イ 由 イ 源氏 イ 後 イ 角 イ 馬 イ どの

あゆむの  
實の熱  
まらむ

いづゆる 後拾遺書に駒をいづゆる イ 源氏 イ 後 イ 角 イ 馬 イ どの

とち イ 草紙 イ 上あせ イ 花 イ 草紙 イ 上あせ イ

り イ 草紙 イ 上あせ イ 花 イ 草紙 イ 上あせ イ

○おびゆる 万葉集 イ 二 イ 協流 イ 草紙 イ 上あせ イ 花 イ 草紙 イ 上あせ イ

や イ 草紙 イ 上あせ イ 花 イ 草紙 イ 上あせ イ

○くゆる 万葉 イ 十四 イ 小 イ 見越 イ 崎 イ 岩 イ 崩 イ 久由 イ 由 イ 草紙 イ 上あせ イ 花 イ 草紙 イ 上あせ イ

○志あゆる 万葉 イ 二 イ 夏 イ 草紙 イ 上あせ イ 花 イ 草紙 イ 上あせ イ

之 イ 奈 イ 要 イ 草紙 イ 上あせ イ 花 イ 草紙 イ 上あせ イ

た イ 草紙 イ 上あせ イ 花 イ 草紙 イ 上あせ イ

○けいゆる 字鏡 イ 瘠 イ 豆 イ 比 イ 由 イ 草紙 イ 上あせ イ 花 イ 草紙 イ 上あせ イ

（かられは）  
川流が  
うれはし

御若敷坐  
はりのえハ  
まろやぐ  
はるまろ  
やくのえハ  
やけのえハ

- 万葉二のつれは波干由流とよきなり
- ひゆる 拾遺集に乃々ひゆるえよきなりあり
- ほゆる 靈異記の喚吠と保由を訓注あり
- 乃ゆる 出雲国造神賀詞の御若敷坐 忠見集に  
とく草の志はくをわゆるガニワカヤグ忠見集に人の乃ゆるトイラ
- 乃ゆる 赤保野の家集の露よ乃ゆるガニワカヤグなりあり
- 乃ゆる 古事記中巻に御軍皆速延而日本紀の瘁瘡  
あふの字を去るありけり活することとてなれば阿乃  
いもわよなること日本紀のなまこやよりとてけりは  
りありとてなる

羅行之圖 並受つてにそのの

下二段活	中二段活	四段活
晴 <small>ハル</small> 枯 <small>カル</small>	舊 <small>フル</small> 下 <small>タル</small>	釣 <small>ツル</small> 去 <small>カル</small>
(れ)	(り)	(ら)
まぬ <small>ハル</small> せ <small>カル</small>	まぬ <small>フル</small> せ <small>タル</small>	まぬ <small>ツル</small> せ <small>カル</small>
はる <small>ハル</small> き <small>ハル</small>	はる <small>フル</small> き <small>フル</small>	はる <small>ツル</small> き <small>ツル</small>
はる <small>ハル</small> き <small>ハル</small>	はる <small>フル</small> き <small>フル</small>	はる <small>ツル</small> き <small>ツル</small>
(る)	(る)	(る)
はる <small>ハル</small> き <small>ハル</small>	はる <small>フル</small> き <small>フル</small>	はる <small>ツル</small> き <small>ツル</small>
(る)	(る)	(る)
はる <small>ハル</small> き <small>ハル</small>	はる <small>フル</small> き <small>フル</small>	はる <small>ツル</small> き <small>ツル</small>
(れ)	(れ)	(れ)
はる <small>ハル</small> き <small>ハル</small>	はる <small>フル</small> き <small>フル</small>	はる <small>ツル</small> き <small>ツル</small>

○ はるふる二匹の活河なり

四段の活詞

あゝ有	あゝ明	あゝ上	あゝ求食
あゝあ	あゝききう嘲	あゝる當	あゝる暖
あゝあう集	あゝあはる又慢	あゝあくる又探	あゝある又
あゝあう餘	あゝあう天降	あゝあやかる宵	あゝあう又更華
あゝ入	あゝ又妙熬	あゝあう怒	あゝあう憤
あゝあう漢	あゝあう至	あゝあう勞	あゝあう繫在
あゝあう偽	あゝあう祈	あゝあう齋	あゝあう彩
あゝあう賣	あゝあう自任	あゝあう集	あゝあう躡踞
あゝあう又蕃息殖	あゝあう擇	あゝあう織	あゝあう餘

あゝあう送	あゝあう奥隱	あゝあう起	あゝあう驕
あゝあう忘	あゝあう懼	あゝあう又熾	あゝあう劣
あゝあう又亂意	あゝあう阿諛	あゝあう借	あゝあう獵
あゝあう菊	あゝあう係	あゝあう被	あゝあう屈
あゝあう限	あゝあう隱	あゝあう翔	あゝあう影
あゝあう飾	あゝあう重	あゝあう畏	あゝあう語
あゝあう固	あゝあう偏	あゝあう爬羅	あゝあう代
あゝあう帰	あゝあう薰	あゝあう切	あゝあう又鑽
あゝあう轉	あゝあう来	あゝあう清	あゝあう又剗鑿
あゝあう縑	あゝあう括	あゝあう潜	あゝあう局

八間語釋下

食也といふ  
 讀文ニ小  
 私入全曉ハ  
 下もといふ  
 たり略之

千言一

○ろろろ又鎖 <small>府</small>	ろろろ降	ろろろ覆	○ろろろ <small>シキネ</small> 意
ろろろ配	ろろろ加	ろろろ溢	ろろろ曇
ろゆる薫	○ろろろ <small>ガ</small> 暗	けづろ削	ろろ凝
○こころ舉	こころ断	こころ氷	こころ籠
○こやう臥	けろ去	けろ離	けろ <small>ね</small> ぼろ榮昇
けがろ下	けがろ探	○けろ <small>ぶ</small> ろ小賢	けがろ <small>ゆ</small> ろ定
けがろ授	けろ悟	けろ <small>ぶ</small> ろ轉	けやろ障
ある知	ある頻	ある茂	○ある <small>ぶ</small> ろ縮
ある垂	ある滴	ある縛	ある絞
○あるろ締	ある濕	ある折檻	ある相

○あるろ撰擇	○あるろ駁	あるろ <small>た</small> る煤垂	○あるろ踏々
あるろ之	あるろ居	せまる迫	あるろ反
あるろ譏	○あるろ進	あるろ弄	あるろ漆
あるろ漆	ある足	ある垂	ある <small>た</small> る沸騰
あるろ手繰	あるろ助	ある <small>た</small> る榮	○あるろ <small>た</small> る疊有
あるろ <small>た</small> る携	あるろ <small>尋</small> 又迪 <small>意</small>	あるろ賜	あるろ方便
あるろ飛散	あるろ潮	あるろ <small>た</small> る徘徊	あるろ散
あるろ契	ある釣	ある作	ある <small>ね</small> ろ綴
あるろ <small>ね</small> 機	ある <small>ね</small> まる約	ある <small>ね</small> る募	○あるろ擇食
あるろ積	ある <small>ね</small> ゆる強	ある <small>ね</small> る連	あるろ照

八言五下

八行言部

せつる取	やぶる滞	やぶる隣	やぶる通
せつる止	なつる成	なつる鳴	なつる近
なつる名告	なつる翮	なつる直	なつる訛
おとる握	おとる濁	おとる踰	おとる鈍
ぬつ塗	ぬつ煉	ぬつ誓	ぬつ眠
のつ又騎	のつ告	のつ睹	のつ残
のぞく除	のぞく又寛和	のぞく罵	のぞく延
のぞく又昇騰	のぞく張	のぞく這入	のぞく計
とつ走	とつ始	とつ又噴徴	とつ離
とつ又憚	とつ又蔓	とつ放	とつ省

手形部

とつ又速時行	ひつ	ひつ光	ひつ清
ひつ又捨	ひろむ私	ひろむ振	ひろむ降
ふつ觸	ふつ耽	ふつ塞	ふつ隔
ほつ又掘	ほつ欲	ほつ誇	ほつ細
ほつ又ある被延	ほつ又遊	ほつ又蔓	ほつ屠
まつ又齋	まつ又罷	まつ又捲	まつ又勝
まつ又弄	まつ又交雜	まつ又交	まつ又守
まつ又纏	まつ又曲	まつ又廻	まつ又守
まつ又參	みだる亂	みだる實	まつ又内
むつ又貪	むつ又憤	むつ又巡	むつ又守

手形部





帶刀や籠  
 口やちのや  
 ハナナカヤ  
 の意は物  
 をあらふ  
 ふにおく  
 之蝶や花  
 やといふの  
 判ふ同ド  
 一いつぐん  
 いハ発語之

ありふのききあり

- 一いつぐん 日本紀舒明卷に入畝傍山因以探山欽明卷  
カキヘテ 小考竅古今又字鏡小竅阿奈久苗榮花抄語うくの  
井マシテ 別ノ帯刀や籠口やちのやのききよるひ何はあつて  
ヒヨナリ かつたてたてしつていせうしつてあつ世うはむあつたつて  
ヒドイ けつていせうしつていせうしつてあつ
- あづる 字鏡ニ焚阿夫苗後撰某抄より衣らぎらむ
- あやうれ 拾遺集ニ伊やわらむと云ふことあり
- いづる 万葉十巻ニ伊射流火波とあり
- いはぐれ 万葉九巻ニ伊都我里まうせとあり

産登の義  
 あと一

木ぎはる  
 樹けは賣  
 ろをい

- うらむる 大被詞ニ集侍續日本紀ニ未為字古那波礼苗
- うらゆる 古事記下巻に庭とあり字受須麻理韋とあり
- うゆる 日本紀允恭巻ニ蕃息仁賢巻に殖皇極巻ニ  
ウマハラ 不蕃息とあり

- 木ぎはる 字鏡ニ餘於支乃利古佐日記ニ木ぎのり
- としとあやあり
- 木くゆる 源氏若葉ニ  
ウマハラ 木くゆるは木くゆるに  
ウマハラ 木くゆるは木くゆるに
- 木ゆる 續日本紀宣命に懼理とありけりこの河申  
カキヘテ 昔よりハ下二段の活きエはを古くハかく四段乃活に  
カキヘテ てもひたり此例隠觸志とあり



八段小結  
いたる結  
王麻利結  
堅めたる

志を  
おのつ字  
折る  
くさ  
音便なり

とほつとあるとつる事あり

○ けつとろ 朽ちるほ物ざうり又狭衣四上ゴガカシキ

○ 志ぶまれ 栄花物語玉飾工のり合や志ぶめり

○ 志ぶる 藤原系若くは大きからる志ぶるつるより云

○ 志ゆる 古事記下巻哥にわしヒマリ麻理斯ヒマリ麻理ヒマリ令ヒマリ廻ヒマリ

○ 志ぶる 伊勢物語女とすうをさへヒマリにヒマリあて志ぶるヒマリ

○ 志ぶる 源氏物語女は後三やうをわしヒマリ志ぶる

○ 志ぶる 源氏物語上下よえらび志ぶるたるよめ

○ 志ぶる 源氏物語女とすうをさへヒマリにヒマリあて志ぶるヒマリ

かまの酒  
云の糟と湯  
よつぎ  
てのむ負  
しき者の  
あり

あが曾々  
理越中の  
立山の峠

鼻と。と。りく。に。な。ず。あり。又。万。原。五。よ。の。酒。う。ち。須。々。呂。

比。豆。と。も。つ。たり。須。々。呂。比。ち。む。む。む。なり。

○ 志ぶる 拾遺集志ぶるなむと堀川百首夏ふも

る中やにふらむと云二郎百首にふらむと云ぬが

堀川百首初ると云にふらむと云ありさへは下二段の

そとさきさゆなり

○ 志ぶる 宇治拾遺物語のびあがむゆりや云も

ぢりもらむと云ひと云と云てヒマリ座と云と云を志ぶる

○ 志ぶる 万葉集十七あ月ヒマリ曾々ヒマリ理ヒマリ立ヒマリ山ヒマリ神樂寺

八衢語釋下





ことし今世大い器を留る器を此言

船年加流うは舟の船をひける行

礼申取括工はをくくたのまりおるはうはくを云  
燕 旧 糞

○まくら 枕草紙小油かへすやあ  
麻那賀理とあり

○まくら 古車記上巻にたす麻那賀理とあり

○むつろ 万葉二十に船年加流舟とあり  
船内舟

○もぢろ 宇治拾遺物語よびあぶるやゆりてまじり  
マハネハナラ

○つぐり 舟年加流云々あり  
タケ

○やまゆ 日本紀宣帝に息安麻流倍伎又休息安麻利  
豆

○ゆる 住吉の舟に去るうらゆりたるうらり  
進

○ゆる 神樂哥に由須利うらりやうらり  
進

○ゆる 須氏若菜うらりやうらり  
進

○つとろ 日本紀神代哥にわたり鳥鳴着  
我々

○つとろ 和素選珥よきやうらり万葉二十に和須良  
年磁なぞうらりけくかく才一の音うらりむのてよをハ  
 トテ

を愛するはまのじやく四段のそりたかぎねをこの内中  
 昔より下二段の信にのこりたる古事記よ八味ハワレド世  
 のこもぐよこありゆりて下二段の信なり

○わづかまる 枕草紙わづかまるあり  
オコシラシ

○さくら 日本紀に誘聚保氏若菜にを  
スカシキトラウ

乃らよそ候松申納言おつりにををたどありさくみ  
 飯字ハ日本紀よりわづかまるを訓たれはらにありつ

○きせつ 日本紀神武卷に望見まの聰なるよるを  
 之がぢり暫日本紀の帳字はけふよりてふにかせせ

○万葉十三エ なる杖を須具里まの十四よを  
 ちう十みに羽具久毛流又宣命にけまふりなふり

あまむけ万葉十三万歌同一巻よあそひのたに杖のわづ  
 えと過而ふりまの例まもくれあひせぬにり

○まどく 四反の活の才四れ書よりまのひまひま  
 さきれなふらむにまのひまのむなむなまのむなまのむな

たるなまのむなむらりるれにころるふまにけりま  
 たり

まふなりこのたが活の才よりうさるまをまのまのまの  
 なまのむな活の葉の列のありまのひまのむなまのむな  
 りらりまのむな万葉の咲有立有思有かぞ有の字をそへ  
 てつれてまのむなまのむなまのむなまのむなまのむな  
 まのむなまのむなまのむなまのむなまのむなまのむな

中二段の活詞

こめをと俗言よハるこつ例あり

か何下 こ何 戀 ふ何 舊 ゆ何 免

○うけい 古今集恋ふわが身うけいおきこぞろおしは採  
 某誰ふうそひなるは中よき性冷日記二人の序めり



う。ど。の。あ。り。ま。す。

下二段の活詞

けろと俗言ハハルヤリ何あり

あゝ荒	あゝ散	あゝ憫	あゝ在	あゝ在	あゝ在
あゝ荒	あゝ荒	あゝ溢	あゝ顯	あゝ顯	あゝ顯
あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又
あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又
あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又
あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又
あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又
あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又
あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又
あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又	あゝ又

かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる
かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる
かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる
かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる
かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる
かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる
かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる
かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる
かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる
かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる	かゝる

ほろろ疲	ほろろ漬	びろろ馴	なろろ流
なぞろろ又眺望	なぞろろ悪	めろろ濡	しろろ寝
のろろ遁	ろろ晴	ろろ外	ろろ離
ろろ放	ひろろ牽	ひろろ漬	ろろ觸
ろろ膨脹	ほろろ惚	まろろ紛	まろろ待
まろろ惑	まぬろろ免	まみろろ塗	みろろ亂
むろろ群	むろろ睦	むろろ結	むろろ結
ろろ目離	ろろ召	ろろ目馴	ろろ漏
もろろ催	やろろ破	やろろ塞	わろろ破
ゆるろろ許	ゆるろろ縫	ゆるろろ同上	わろろ破

折 別  
 折 同上  
 折 同上  
 折 同上

○右よ奉たる外四段の活も第一乃きより第二乃きより第三乃きより第四乃きより第五乃きより第六乃きより第七乃きより第八乃きより第九乃きより第十乃きより第十一乃きより第十二乃きより第十三乃きより第十四乃きより第十五乃きより第十六乃きより第十七乃きより第十八乃きより第十九乃きより第二十乃きより第二十一乃きより第二十二乃きより第二十三乃きより第二十四乃きより第二十五乃きより第二十六乃きより第二十七乃きより第二十八乃きより第二十九乃きより第三十乃きより第三十一乃きより第三十二乃きより第三十三乃きより第三十四乃きより第三十五乃きより第三十六乃きより第三十七乃きより第三十八乃きより第三十九乃きより第四十乃きより第四十一乃きより第四十二乃きより第四十三乃きより第四十四乃きより第四十五乃きより第四十六乃きより第四十七乃きより第四十八乃きより第四十九乃きより第五十乃きより第五十一乃きより第五十二乃きより第五十三乃きより第五十四乃きより第五十五乃きより第五十六乃きより第五十七乃きより第五十八乃きより第五十九乃きより第六十乃きより第六十一乃きより第六十二乃きより第六十三乃きより第六十四乃きより第六十五乃きより第六十六乃きより第六十七乃きより第六十八乃きより第六十九乃きより第七十乃きより第七十一乃きより第七十二乃きより第七十三乃きより第七十四乃きより第七十五乃きより第七十六乃きより第七十七乃きより第七十八乃きより第七十九乃きより第八十乃きより第八十一乃きより第八十二乃きより第八十三乃きより第八十四乃きより第八十五乃きより第八十六乃きより第八十七乃きより第八十八乃きより第八十九乃きより第九十乃きより第九十一乃きより第九十二乃きより第九十三乃きより第九十四乃きより第九十五乃きより第九十六乃きより第九十七乃きより第九十八乃きより第九十九乃きより第一百乃きより

今より香眞  
禮(今懸  
想(今懸  
同(詩)

○あがろ 源氏物語本にあがろ、あかく空輝巻に  
あがろキウスいぢり

○あざり 字鏡、鰯魚肉爛也阿佐礼、太利とあり

○わびろ 物かぎり文チビなごりれろとあり外チボケ

○わほろ 源氏物語にわほろとあり又手習に髪

○かぐろ 万葉九に舟カグロとあり又手習に髪

○かざろ 和名抄、漆瘡、和名宇流之加不礼とあり

○くろ 神皇正統記に山人のくろとあり山杖サニ

○志げろ 散木寄歌集に志げろとありガみまろサニみまろ

○あぢろ 小笠原とあり同長奇ふとあり水

○あぢろ 雪井とあり水丹波とあり忠家百

○あぢろ 仲心ハヤウカラ胡ハシロイヌノヤウナとあり

○あぢろ 綺語抄にありハヤウカラ

○あぢろ 乃とありハヤウカラ

○あぢろ 大御言ハヤウカラ等とあり

○あぢろ 八四段とあり

○あぢろ

○あぢろ

○あぢろ

○あぢろ

○あぢろ

山人の山  
あぢろ  
をさろ

あぢろは是  
八疑の格よ  
切る格よ  
て結にハ  
あぢろは  
れハハハ  
つねとて  
意とらへ  
返ら

ざゆりりかきも活くくもあまや外よりあつて

○まみあつて 詞苑集志よりマダカトバツカリ イノガレテ

とあり速く炭焼をわすたり

○まゆ 支本集鷹乃奇よとれぬまばとよあり

○まほろ 狭衣一よりひきまけいせありま

今概わ奇集に為真入道いひまの梅乃るのまきうわを

ぞうれ春雨よりほきてをなくともまき

○たつら 古事記上巻に宇士多加礼中あり俗云ふた

と四段のくも河よつて

○たつら 古事記上巻に血爛をみ焼たれりともあり

○まろく 係氏夕歌よりスナリモノニナルカ

○まみり 日本紀神代巻に血染をまほろりともあり

まき千載集よりまほろりともあり

○むろく 丹後守為忠家百そよ為盛つとまほろりともあり

まほろりともありむまきとまほろりともあり

○まろく 神樂奇に袖をまほろりともあり

○まろびり 和唐書にまろびりともあり外聞に

たる事ありまほろりともありまほろりともあり

めいんめい  
巴然言の  
格ふりて  
とらりて  
事

和行之圖 並うらるるをその系

一段の活 居 <small>井ル</small>	中二段活 率 <small>率</small>	下二段活 植 <small>植</small>
①	②	③
キムネトデモ	キムネトデモ	キムネトデモ
ワタキテ	ワタキテ	ワタキテ
ウツキテ	ウツキテ	ウツキテ
④	⑤	⑥
シラキム	シラキム	シラキム
⑦	⑧	⑨
トキマカ	トキマカ	トキマカ
⑩	⑪	⑫
ギヤモ	ギヤモ	ギヤモ

○この形は四段乃至五段なり

一段の活詞

おる

○和名抄小艘俗云為流船。著沙不行也又斷此間云波井。  
流齒傷酢也。あつは同きりま。同言しと。あつは同きりま。  
羅乃の四段の活詞。あつは同きりま。あつは同きりま。  
あつは同きりま。あつは同きりま。あつは同きりま。

中二段の活詞

このうらるるを俗云はわらうらるるなり

うらるる。ひきうらるる引率

○うらるる物活さし。わらうらるるなり。わらうらるる。

急の字を  
荒岐と云  
をきむに  
はらうに  
てくつに  
とんすに  
とる意

下二段の活詞

みくると倭えはるるとの例

飢 飢 飢 飢

植 植 植 植

蹴 蹴 蹴 蹴

居 居 居 居

○うい 字鏡に饑伊比余宇々ありけうゑとつるま

|| ころころ || 活きたるもやせとされもころの活きたる

たうまゝれとひきうられひきをくづたる初まひの八はく

にひきうるはけ初よりたうまゝとそをくつるあり

○ほさうれ 日本紀崇神卷に急居此云荒岐于とあり物

つて文よほへのおまなごつたうとくまゝにわが初あり

ツクバ井

今中れ草  
和名抄ふ  
草とあ  
り春野上  
りえ出る  
若菜のど  
の頃花さ  
く草

（こま）斐  
恵母と伊久  
言ゆて斐  
恵の肉を  
薄く切

○ころ 伊呂物語に口をれ草う。やだよとわめははるほ

○くろくろ 古事記上巻に蹴散又蹴離 日本紀に楚散此云

俱穢蹴邏々箇須ありとてわめ抄に蹴鞠世間云末利古由

とありわが初つらとわめつてハ也 けの下二段のまゝに

て紙字をなう。わらうとわく誤るるや

○まゝる 神代集にわらうとわく大内山乃とらにえ今ハな

こをれ因をまゝるるにありまゝるるや

○ひらう 古事記中巻にこま斐恵涅ありの河外に活

きたるるわめとえとわらうとわく四の音より祢とらうるハ下二段の

活のまゝるるをわら抄に竹力阿乎比衣とらうるま平ハひ

然せし  
仰けり  
と辭

つねにうけつたてしむるに能くあはれん  
こころを

安<sup>レ</sup>行<sup>ハ</sup>を<sup>シ</sup>て<sup>テ</sup>右<sup>ノ</sup>奉<sup>ル</sup>る<sup>中</sup>葉<sup>ニ</sup>そ<sup>レ</sup>程<sup>キ</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>さ<sup>レ</sup>き<sup>く</sup>  
か<sup>レ</sup>ば<sup>も</sup>ち<sup>て</sup>お<sup>の</sup>れ<sup>し</sup>を<sup>も</sup>た<sup>へ</sup>し<sup>て</sup>お<sup>の</sup>れ<sup>し</sup>に<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>  
お<sup>の</sup>れ<sup>し</sup>の<sup>ゆ</sup>へ<sup>に</sup>そ<sup>レ</sup>ら<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>ち<sup>て</sup>し<sup>ら</sup>べ<sup>し</sup>ま<sup>す</sup>

文化三年春三月

あや葉乃<sup>も</sup>た<sup>へ</sup>し<sup>て</sup>お<sup>の</sup>れ<sup>し</sup>の<sup>ゆ</sup>へ<sup>に</sup>そ<sup>レ</sup>ら<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>  
あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>  
あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>  
あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>  
あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>  
あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>  
あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>  
あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>  
あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>  
あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>あ<sup>ら</sup>は<sup>れ</sup>し<sup>も</sup>の<sup>の</sup>ゆ<sup>へ</sup>に<sup>も</sup>

ボウヤリシターニ  
ハチマこの跋

今冬有  
事有  
約  
てあ  
ま  
い

だひろくみぬ人可く  
よみ得。つとむな  
たりてちおひま  
もへひつと  
春庭。のひま  
書。毎人

十ニヤカヤ

アリサウニシエ

いせとまを  
つとむな  
もへひつと  
春庭。のひま  
書。毎人



てぬきあしひのむらあはたのむらあしひ  
 小つとくへてりあしひへてり。

本居大平

明治十七年三月廿七日版權免許  
 同年四月三十日出版

原著者 三重縣平民 本居健亭

相續人 滋賀縣士族 伊勢國飯高郡松阪魚町四十六番地 渡邊弘人

註釋人 大阪府平民 近江國滋賀郡南保町十番地寄留 松村九兵衛

出版人 全 全 中川勘助

全 全 前川善兵衛

全東區博勞町四丁目四十三番地

全東區南久寶寺町四丁目五十九番地

全 全

前川源七郎

全東區北久寶寺町四丁目三十九番地

中尾新助

全東區本町四丁目五十六番地

北尾禹三郎

全東區安土町四丁目九番地

小谷卯三郎

全東區備後町四丁目三十七番地

吉岡平助

全東區備後町四丁目三十七番地

淺井吉兵衛

全東區唐物町四丁目三十七番地

岡島真七

全東區本町四丁目五十九番地

大谷仁兵衛

下京區第五組辨慶石町二十五番戶

竹岡文助

上京區第三十組天性寺前町十八番戶

川勝徳次郎

下京區第十三組中町十六番戶

藤井孫兵衛

上京區第三十組大文字町八番戶

京都府平民

